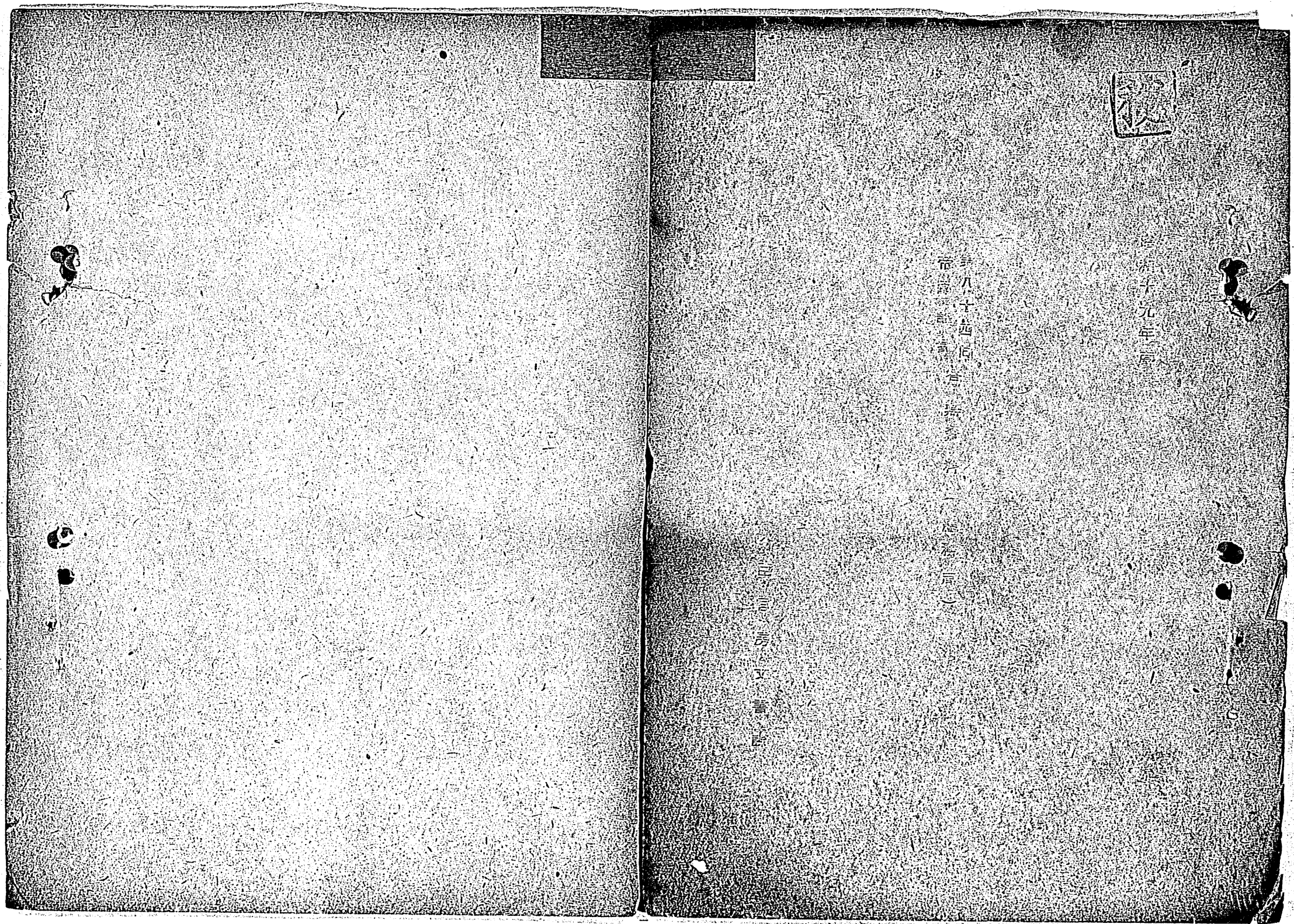


REEL No. A-0549



アジア歴史資料センター



徳

十九年

第八十四回
帝...
...
...

...

REEL No. A-0549



アジア歴史資料センター

目次 (番號ノ上ノ秘ハ「秘密會」トス)

第一編 緒言

一、編者語

秘一 大東亞會議ノ成果如何又大東亞ノ政治的結束

強化方針如何

秘二 大東亞會議ノ如キモノヲ常設ノ機構トス意圖

ナキヤ

秘三 印度問題ニ關スル政府ノ所見如何

秘四 日華同盟條約ノ締結ニ付今後ノ要請及北

極權ニ對スル對處方針如何

秘五 對東亞和平ニ對スル政府ノ所見如何

六 大東亞各埠域ニ對スル經濟關係ノ基本方針及

其ノ進行狀況並ニ物的實力増強ニ對スル對日

警戒ノ現狀

七 大東亞會議ノ成果如何

八 大東亞會議ノ結果並其ノ他大東亞諸埠域外

ノ諸國ニ與ヘタル影響如何

九 「タイ」並「ヒボン」首相出席セザルシ運庄

如何

一〇 印度後政府樹立ノ大東亞諸國ニ及ボセザル影

響如何

一、大東亞共同宣言ノ起草ニ付關係ノ意見
如何ヲ加味セラレタルヤ
一〇一〇一〇一三

二、大東亞共同宣言中ノ大東亞建設總領ノ趣旨
ニ於テ洵ニ結締ナルモ戰時ノ現段階ニ於テ直
チニ其ノ具現ニ進ムコト却ツテ實際問題ノ處
理ニ惡影響ヲ及ボスノ懸念ナキヤ
一〇一〇一〇一四

三、大東亞總集強化ノ爲政府トシテ今後更ニ何
等カノ方策ヲ考究シ得レルヤ
一〇一〇一〇一五

二、技術關係
一、大東亞技術委員會ニテ日下審議中ノ重要事項
如何
一〇一〇一〇一六

三、小型熔鐵爐ノ技術的効果及見地如何
三、ア、ミニウム原料ノ鑛土頁岩轉換計畫ノ技術
的見地如何
一〇一〇一〇一八

三、鍊成關係
一、大東亞委員會鍊成ノ基本方針ヲ問フ
一〇一〇一〇一九

二、大東亞鍊成所ノ組織與鍊成所與南鍊成院ト
ノ關係如何
一〇一〇一〇二〇

三、南方委員會鍊成ノ根本方針ヲ問フ
四、南寧關係
一〇一〇一〇二三

一、省日鑛業ノ指導ニ關スル事
五、經濟關係
一〇一〇一〇二五

融一 大東亞地域ガ帝國ノ物的戰力増進ニ對シテ
 英シツツアル現狀如何
 融二 大陸ニ於ケル陸運轉換ノ實狀如何
 融三 大東亞共榮圈ノ交易ノ現狀如何
 融四 大東亞地域ニ於ケル食糧ノ現狀及對策如何
 融五 大東亞地域ニ於ケル鐵道資源ノ現狀及對策如何

一〇一
 一〇二
 一〇三
 一〇四
 一〇五
 一〇六
 一〇七
 一〇八
 一〇九
 一一〇
 一一一
 一一二
 一一三

第一、大東亞會議ノ成果如何又大東亞ノ政治的結集強化方針如何

大東亞會議開催ノ結果關係各國ガ大東亞戰爭完遂ノ決意並大東亞ノ建設延イテハ世界平和確立ニ對スル理想ト熱意トガ其ノ根本ニ於テ完全ニ一致セルコトガ相互ニ確認セラハルト共ニ他面參集各國代表ガ此ノ機會ニ於テ相互ニ接觸スル機會ヲ得又相互ノ問題ニ關シテ理解ヲ深ムルコトニ依リ今次戰爭ノ本質ト大東亞建設ノ眞義ニ關スル認識ヲ一層深ムルニ至リ茲ニ各國代表者ノ胸ニ共通ニ抱カレ居ル亞細亞人トシテノ本然ノ意識ノ覺醒ガ一段ト昂揚セラレ大東亞全般ノ結集強化ニ資スル所妙カラザリシモノアリ參集各國代表者ハ歸國後夫々聲明乃至ハ議會演說等ノ形式ヲ以テ本會議ノ成果及共同宣言ノ

意義ニ付其ノ重要性ヲ強調スルト共ニ國民ノ戰爭完遂及大東亞建設ニ對スル認識ノ普及徹底ニ努メ各國ノ輿論亦舉ツテ大東亞會議ヲ諒敬シ今ヤ全東亞ヲ遙シ多大ノ反響ヲ生シツツアリ以上ノ成果ニ鑑ミ大東亞共同宣言ノ意義ヲ更ニ普及徹底シ大東亞ノ精神的團結ノ強化ニ向ヒ一段ノ努力ヲ傾注シ以テ敵側政謀略ノ乘ズベキ間隙ナカラシムルト共ニ夫々ノ地域ニ於ケル民生ノ安定産業ノ復興延イテハ民心ノ善導等各國ノ着實ナル國內施策ノ推進ヲ支援シ以テ大東亞ノ結集強化ニ遺憾ナカラシメントスル方針ナリ

秘二、大東亞會議ノ如キモノヲ常設ノ機構トスル意向ナキヤ

今次ノ大東亞會議ハ帝國ノ大東亞ニ對スル屢次ノ政治的諸施策具
現ノ狀況ト世界戰局ノ推移トニ對應シ此ノ際各國ノ國政ノ責任者ガ
一堂ニ會シ戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針ニ關シ隔意ナキ協議ヲ遂ケ
以テ大東亞諸國家結集ノ態勢ヲ整備強化スルコト適當ナリト認メ之
ヲ開催セルモノニシテ本會議ハ其目的ヲ達成シテ閉會セリ大東亞諸
國家又ハ其代表者ヲ以テ構成スル常設ノ機關ヲ設クルコトニ付テハ
考慮シ居ラズ尤モ今次會議ノ席上ニ於テ一、二、代表ヨリ此種會議
ヲ將來ニ於テモ開催スル豫希望モ出タル次第モアリ今後關係各國
意向同一般情勢ヲモ考慮シ適當ノ機會ニ再ビ此種ノ會議ヲ主催スル

コトト致度所存ナリ

秘三、印度問題ニ關スル政府ノ所見如何

印度ハ敵英國トシテ軍事、政治、經濟、建設ニ亘リ最モ重視シ居ル
領域ナルニ拘ラズ印度問題ハ戰爭ノ大義名分ノ上ヨリ觀テ敵側トシ
テ此處ニ最大ノ弱點ヲ包藏スル所ナリ他面印度ハ亞細亞ニ於ケル有
力ナル民族ノ本據ニシテ我方トシテハ大東亞ニ於ケル諸施策ヲ進ム
ル上ニ常ニ之ヲ念頭ニ置クヲ要スルモノナリ過般帝國政府ニ於テ印
度假政府ヲ承認セルハ此ノ間ノ情勢ニ處セントスル帝國ノ企圖ヲ具
現セルモノニ外ナラズ現ニ今次大東亞會議ノ經過ニ徴スルモ印度假
政府首班「ボース」氏ノ陪席ニ依リ米英ノ並細亞ニ於ケル侵略擄取
ノ實體ガ同首班自ラノ口ヲ通ジ究明セラレ今次戰爭ノ真義ガ奈邊ニ
在スルヤニ付他ノ大東亞諸國ノ認識ヲ一段ト深メ延不テ各國ノ結集

強化ニ資スル所尠カラザリシモノアリ更ニ「ボース」氏ハ離京後南
京及「マニラ」ヲ正式訪問セルガ此ノ間大東亞建設ノ真義ヲ對外的
ニ縷々宣明シ敵側陣營ニ對シテ與ハタル影響モ見逃シ得サルモノア
リ政府トシテハ今後トモ印度問題ニ關シテハ重大ナル關心ヲ以テ適
時適切ナル施策ヲ進メ度意向ナリ

秘四、日華同盟條約ノ締結ニ伴フ今後ノ蒙疆及華北政權ニ對スル對處方針如何

日華同盟條約ノ締結ニ依リ蒙疆及華北ノ特殊性ハ明文上解消スルニ至リ從テ蒙古聯合自治政府及華北政務委員會ノ處理ハ主義上支那ノ內政問題ニ屬セシメラレタルモノト認メ得ベキモ是等兩政權ハ夫々其ノ存立理由アリテ樹立セラレタルモノナラ以テ同條約附屬交換公文ノ趣旨ニ依リ調整セラレルコトハ別トシテ國民政府自體トシテモ固ヨリ直チニ之ヲ解消セントスル如キ意向ヲ有シ居ラズ日華兩國ハ日華共同宣言ニ基キ大東亞戰爭ノ完遂ニ向ヒ完全ナル協力ヲ爲シツツアリ而シテ中華民國ニ於ケル重要國防資源ノ開發利用等戰爭遂行ニ不可缺ナル經濟協力ガ從來ノ政治組織ト緊密ナル關係ニ於テ確保運營セラレツツアリタルコトモ事實ナルヲ以テ現狀ニ急激且廣範ナル變化ヲ與ヘ之ガ爲ノ兩國ノ協力關係乃至ハ戰力増強ノ目的ニ支障ヲ生ズルガ如キコトハ避クルヲ要ス

第五、對重慶和平ニ對スル政府ノ所見如何

(一)帝國政府ノ對重慶和平工作實施ノ有無
帝國ハ軍官民ヲ通シ所謂對重慶和平工作ヲ行ハザルコトニ方針ヲ
定メ居レリ

(二)國民政府ノ對重慶和平工作實施ニ關スル所見
國民政府トシテハ支那ニ全面和平ヲ招來セシムルコトハ其ノ當然
ノ任務ナルベク全面和平ノ成否ガ日華本然ノ關係確立ノ前提トナ
リ居レル實情ヨリスルモ國民政府自體トシテハ全面和平實現ヲ目
途トシ努力スルコトハ當然ナリ故ニ此點ハ國民政府當局ノ採置ニ
委セ居レリ

(三)重慶トノ全面和平ノ見透シ如何

「ビルマ」路閉鎖セラレ居ル爲米英ヨリノ實質的援助ニ多クヲ期
待シ得ズ抗戰經濟ノ根本ハ益々深刻ナルモノアリ從テ一般民衆ノ
間ニ厭戰氣分可成リ瀟漫シ居ルハ事實ナル模様ニシテ重慶ノ内部
ニ於ケル全面和平ノ氣運絶無トハ稱シ得ザルモカイロ會議ニ示サ
レタル如ク米英ハ戰後ニ於ケル東亞處理ニ付重慶ノ大ナル發言權
ヲ認ムル考案ニ依リ各般ノ政謀略ヲ實施シ之ヲ反樞軸陣營ニ繫留
スベク躍起トナリ居リ他面歐洲ニ於ケル反樞軸側ノ戰況一應有利
ニ見ユル現況ニ於テハ重慶ハ依然鞏固ナル抗戰意思ヲ有スルモノ
ト判斷セラル故ニ我國トシテ今直ニ全面和平ニ多クヲ期待スルコ
トナク一面敵擊滅ノ戰ニ專念スルト共ニ對支新政策ノ線ニ沿フル

施策ノ徹底ヲ期シ以テ四億民衆ヲ我ニ歸セシムルノ途ヲ講ズベキ
モノト考ヘ居レリ

REEL No. A-0549

アジア歴史資料センター

六、大東亞各地域ニ對スル經濟開發ノ基本方針及其ノ進行狀況並ニ戰力的增強ニ對スル對日寄與ノ現状

大東亞廣域經濟圈建設ニ關スル方針ハ大東亞各地域ヲシテ互惠ノ下緊密ニ提携シ各其ノ經濟的特質ヲ發揮シツツ而モ帝國ヲ核心トスル綜合的計畫經濟ヲ確立シ以テ自主的國防經濟體制ヲ建設シ更ニ進シテ世界經濟ノ進遷ニ貢獻スルヲ以テ基本方針トス而シテ大東亞戰爭ノ現段階ニ於テハ當面ノ戰爭完遂ノ爲各地域ノ經濟力ヲ擧ゲテ綜合的ニ結集シ物力的戰力ノ急遽ナル強化ヲ期スルヲ以テ第一義トシ併セテ大東亞ノ戰時國民生活ヲ維持スルヲ以テ日途トスベキモノト思

考ス

而シテ當面ノ各地域ニ於ケル經濟建設ノ實情ヲ概観スルニ滿洲國ニアリテハ北邊ノ鎮邊ト重要物資ノ對日寄與ニ重點ヲ置キ先ツ食糧ニ付テハ日滿ヲ通スル食糧ノ自給體制ノ確立ニ努力シツツアリ其ノ成績顯著ナルモノアリ又鐵、石炭、非鐵金屬及輕金屬ニ付之ヲ見ルモ何レモ昨年度ノ實績ニ比シ相當ノ増産ヲ示シツツアルハ感謝ニ堪エザル處ナリ

尙現下船腹ノ狀況ヨリシテ大陸重要物資ノ陸送轉移ハ益々加重ヲ豫想セラルル處大陸鐵道ノ心臟部ヲナス滿鐵ニ課セラレタル責務又莫大ニシテ滿鐵ニ於テモ之ガ對策ニ付萬遺憾ナキヲ期シ居ル狀況ニアリ

次イテ中華民國ニ付キ述ブレバ大東亞戰下重要資源ノ開發利用上

支那ニ對スル期待ハ愈加重セラレルニ至リタルガ昨年初頭中露ノ
戦並ニ之ニ伴フ戦争遂行ノ爲ノ日華共同宣言ヲ契機トシテ支那ニ於
テモ大東亞戦争遂行上必要ナル石炭、鐵、輕金屬原料、棉花、鹽等
重要資源ノ開發及之ガ對日寄與ハ願調ニ進ミツツアリ帝國政府トシ
テハ支那側ノ努力ニ對シ感謝スルト共ニ今後共ニ層ノ積極的協力ヲ
期待シアル次第ナリ

尙支那ニ於ケル食糧問題ノ解決ハ當ニ中國民生上ノ最大問題タル
ノミナラズ重要資源ノ開發上モ必須條件タルニ鑑ミ帝國トシテハ支
那側ノ施設ニ協力シ之ガ増産及南方米及滿洲糧穀輸入等ニ付協力支
援斡旋ニ努メツツアリ

最後ニ南方地域ニ關シ一言スレバ「タイ」國及佛印ニ付テハ戦争
完遂上緊密ナル經濟協力ヲ實行シ來レル所兩國トモ米其ノ他ノ重要
物資ノ供給ニ努メ居リ帝國ト「タイ」國、佛印トノ間ノ交易ハ略々
圓滑ニ遂行セラレアリ

又南方占領地域ニ對スル經濟對策ハ重要國防資源ノ急速取得ヲ第
一義トシ併セテ現地自給力ノ強化並ニ現地民生ノ維持ニ力ヲ致シツ
ツアリ現地陸海軍當局ノ非常ナル努力ト現地住民ノ積極的協力トニ
依リ各地經濟建設ハ願調ニ進行シツツアリテ原油、「ボーキサイト」
銅鐵、「クロム」鐵、「ニッケル」鐵、其他重要物資ノ生産又ハ
對日還送ハ飛躍的ニ増大シツツアリ我戰力増強上大ニ意ヲ強クス
所ナリ

七、大東亞會議ノ成果如何

大東亞會議ノ成果ノ重要ナルモノトシテハ關係各國ノ大東亞戰爭
完遂ノ決意並ニ大東亞建設延テハ世界平和確立ニ對スル理想ト熱意
トガ其ノ根本ニ於テ完全ニ一致スルコトガ相互ニ確認セラレ、特ニ
斯ル完全ナル見解ノ一致ニ基キ採擇セラレタル大東亞共同宣言ガ人
類不滅ノ大憲章トシテ全世界ニ向ツテ宣布セラレ今次戰爭ノ意義ヲ
愈々明カナラシメ得タル點ニ在リ更ニ又參集各國代表ガ相互ノ接觸
トモ相俟チ各代表者ノ胸ニ共通ニ拘カレ居ル亞細亞人トシテノ本能
的意識ガ本會議ニ依リ一段ト覺醒昂揚セラレ大東亞結集ノ強化ニ力
強キ發足ヲ與ヘタル點ナリ參集各代表者ハ歸國後聲明乃至ハ海外演

說等ノ形式ヲ以テ本會議ノ成果及共同宣言ノ意義ニ付其ノ重要性ヲ
強調スルト共ニ國民ニ對スル認識ノ普及徹底ニ努メ相當ノ反應ヲ共
ジツツアリ今後更ニ是ガ結實ヲ圖ル如ク一段ノ努力ヲ傾注スルニ於
テハ大東亞ノ結集ニ資スルコト尠カラサルモノアルベシト認ム

八、大東亞會議ノ敵國重要側面、他大東亞地域外ノ諸國ニ與ヘタル反響如何

敵國及重要ニ對スル反響ハ今日迄ノ所ニ、三ノ勢道ガ簡單ニ會議開催ノ事實ヲ傳ヘ又ハ日本ガ傀儡政府ヲ集メ芝居ヲ演ジタルニ過ギザル等ノ趣旨ヲ宣傳スルニ止マリ繼シテ沈黙ヲ守リツツアル實情ナルヲ以テ的確ナル判斷ヲ下シ難キモ右ノ如キ事實ハ一面敵國及重要ニ於テ會議ガ豫想外ノ成果ヲ收メタルコト並ニ大東亞共同宣言ガ添メテ公然正大ナル内容ヲ有スルコトニ對シ強固的ニ非難批判ヲ加ヘンルコト困難ナリシ爲ト認メラル今次「カイロ」會議ノ如キモ右ノ如キ大東亞ノ結集ノ情勢ニ照應シ蔣ヲ其ノ陣營ニ留メントスル教訓若

肉ノ策ト思考ス

歐洲ニ於ケル同盟國存中立國ニ於ケル反響ヲ見ルニ獨逸、勃牙利、瑞典、芬蘭、西班牙等ニ於テハ新聞紙上ニ會議ノ模様ヲ報道スル外社説、論評等モ散見セラレ何レモ會議ノ成功ヲ認メ日本ガ之ニ依リ大東亞建設ノ礎石ヲ築ケルモノナルコトヲ稱贊シ居ルモ特ニ獨逸ニ於テハ會議ノ模様ヲ新聞ニ大々的ニ報道シ大東亞會議ニ於テ採擇セラレタル決議ハ其ノ理想ニ於テ大西洋憲章トハ比較シ得ザル建設的ニシテ此ノ理想ヲ中心トスル大東亞民族ノ大同團結ハ米英ガ如何ニスルモ武力ヲ以テ破スルコト能ハサル鐵壁ノ堅サヲ有スト驗シ大東亞ニ於ケル政治的發展ニ對シ滿腔ノ敬意ヲ表シ居レリ

「タイ」國「ビブン」首相出席セザリシ理由如何

健康上ノ理由ニ基クモノナリ「ビブン」首相ハ右ノ理由ノ爲今向
ノ會議ニ出席シ得ザリシコトヲ遺憾トスルト共ニ其ノ名代トシテ「ワ
ンワイ、タヤコン」殿下ニ全權ヲ與ヘテ會議ニ派遣シ責任ヲ一切「ビ
ブン」首相ニ於テ負フコトトセル次第ナリ

尙「ビブン」首相ハ健康許スニ至ラバ我國ヲ訪問方希望シ居レリ

△○、印度假政府樹立ノ大東亞諸國ニ及ボセル影響如何

印度假政府樹立セラレ大東亞各國ガ印度問題ニ關心ヲ有セシメラ
ルルニ至リタル結果米英ノ亞細亞ニ對スル侵略擄取ノ實體ヲ知ルニ
至リ今次戦争ノ眞義ガ奈邊ニ存スルヤニ付一段ト其ノ認識ヲ深ムル
ニ至レル點ハ見逃シ得ザル影響トイフベク他面印度ニ派兵シ居レル
重慶ニ該シテモ反省ノ一助タルベシト認メラル

尙假政府ニ對スル「アンダマン」「ニコバル」諸島歸屬方ニ關ス
ル帝國ノ措置ハ帝國リ公明正大ナル眞意ヲ昭カナランムル上ニ資シ
タル所尠カラズ何レニモ同政府トノ共同戦線ハ大東亞ノ大同團結
ノ上ニ尠カラザル影響ヲ與ヘ居ルモノト認ム

秘一、大東亞共同宣言ノ起草ニ付關係國ノ意見ハ如何ニ加味セラレタルヤ

大東亞共同宣言案ハ主權國側トシテ我方ニ於テ一應準備セルモノナルガ是ガ準備ニ當リテハ今次戰爭ノ本義ニ照ラシ帝國トシテ堅持スベキ基本觀念ニ加ヘ大東亞各國ガ戰爭完遂及大東亞ノ建設ニ關シ從前ノ機會ニ於テ帝國ニ披瀝シ來レル所信希望等ヲ充分參酌シ起草シタルモノニシテ既ニ多分ニ關係各國側ノ期望ヲ加味シ作成セラレタルモノナリ右原案ニ付テハ更ニ尋常關係國政府ノ意向ヲ鑒取セルニ對シ殆ソド之ニ贊成ノ意ヲ表セリ唯希望の意見トシテハ「タ」國政府ヨリ世界進運貢獻ノ原則中ニ於テ他地域ニ對スル資源開放ニ付テモ

大東亞各國間ト同様互惠ノ條件ヲ附スルコト適當ナラスヤトノ意見アリ又「ヒルマ」側ヨリ原案ニ加ヘ更ニ大東亞以外ノ他ノ亞細亞民族全般ニ對シ呼稱トナル如キ一項ヲ加フルコト適當ナラスヤトノ意見アリタルガ關係各國側トモ協議ノ結果原案ニテ進ムルコトトナレリ之ヲ原スルニ共同宣言ハ實質的ニ各國ノ創意ニ基キ決定ヲ與タル次第ニシテ大東亞會議第二日ニ於ケル議案審議ノ際互ニ各代表ガ進ンテ之ヲ支持スルノ演說ヲ行ヒ居タルコトハ此ノ點ノ實情ヲ物語ルモノト信ス

一二、大東亞共同宣言中、大東亞建設綱領ハ趣旨ニ於テ洵ニ結構ナル
モ戦争ノ現段階ニ於テ直チニ其ノ具現ニ進ムルコト却ツテ實際問題
ノ處理ニ悪影響ヲ及ボスノ懸念ナキヤ

日本トシテ此ノ未曾有ノ大戦争ヲ完遂スル爲特ニ物的戦力ノ増強
上大東亞諸國ノ積極的ナル協力ヲ必要トスルハ當然且已ムヲ得ザル
所ニシテ此ノ點窮極ノ理想ヲ宣明セル本宣言ニ一見合致セザル如キ
現實面ノ生ズルハ已ムヲ得ザル所ナリ然レドモ關係各國ニ於テ今次戦争
ノ本質ヲ充分認識シ且日本ノ道義的精神ヲ充分了解スルニ至ラバ此
ノ種困難モ自然解消セラルベク帝國ノ求ムル所ハ畢竟各國ノ必更ニ
ル協力カ確タニ自覺ノ下ニ自發的ニ行ハルルニ至ルベキコトヲ期待

スルモノナリ從テ本宣言ノ本旨及其ノ旨ニ在スル帝國ノ道義的精神
ガ共榮圈内ノ各國及各國民ニ充分徹底ナラルルニ於テハ必ズシモ現
實ノ問題ノ處理ニ障礙ニ及ボス惧アリトハ認メラズ尤モ一節ノ間
ニハ或ハ大東亞宣言ヲ橋ニ帝國ノ政策ニ對シテ不滿失望ヲ感スル者存
スベキハ豫想セザルベカラズ敵側ノ宣傳謀略モ亦此ノ點ニ乘ゼント
スル可能性無シトセザルニヨリ帝國政府トシテハ此ノ上共榮民族ノ
認識善導ノ方途ヲ講スルト共ニ他面戦争中ノ事態ニ於テモ實行
ナル限リ共同宣言ノ精神具現ニ邁進シ以テ大東亞ノ締結遂ニテ等
ノ完遂ニ遺憾ナキヲ願フ所存ナリ

一三、大東亞結集強化ノ爲政府トシテ今後更ニ何等カノ方策ヲ考案シ居レルヤ

帝國政府ニ於テハ中華民國ニ付テハ先ヅ對華新政策ノ根本方針ヲ樹立シ其ノ一環トシテ租界還附、治外法權ノ撤廢、日華同盟條約ノ締結等ヲ行ヒ來リ又「タイ」國ニ對シテハ「シヤン」地方及馬來地方ニ於ケル「タイ」國領ノ領土擴張ヲ承認シ又「ビルマ」、「フィリピン」ニ獨立ヲ許容シ更ニ大東亞會議ヲ開催シテ共同宣言ヲ發出スル等大東亞結集強化ノ爲相繼ギ各般ノ政略施策ヲ進メ來タリ一應其ノ政治的成果ヲ納メ得タルモノト信シ居レリ

然乍ラ今日迄ノ施策ハ我方對外政略ノ謂ハバ大筋ヲ整備セラルモノニ

シテ其ノ成果ヲ更ニ結實セシメ得ルヤハ今後ノ施策ニ在リト考ヘ居レリ、即チ今後ノ施策ハ一見外面の生形ヲ缺クルモ實ニ各該各地民ノ實生活ニ關スル實際的具體的問題ニ付適確着實ナル施策ヲ行フコトガ更ニ大東亞ノ結集ヲ強化シ之ガ結實ヲ圖ル上ニ於テ極メテ肝要ナリト認メ居ル次第ニテ今後此ノ方面ニ重點ヲ指向シ行廉キ考ナリ

大東亞技術委員會ニテ審議中ノ重要事項如何

主要ナル審議事項ハ左ノ三件ナリ

一 支那ニ於ケル人造石油計畫ノ實施方策ニ關スル件

今年春以來審議ヲ續ケ答申ノ一部トシテ支那ニ於ケル小型熔鑪
爐コークス製煉ノ決定ヲ見目下實施中ナリ、本計畫ハ内地ヨリ遊
休骸炭爐ノ移設及増設並ニ製鐵用コークスト低温タールトヲ得ン
トスルノールス式骸炭爐建設トヨリナリ支那ニ於ケル人造石油專
業ノ端緒ヲ開キタルモノナリ
右ノ但低温乾溜、ガス合成及直接液化等各種ノ人造石油製造方
式ニ就キ石炭ノ特性試驗並ニ調査ヲ實施中ナリ

一 支那ニ於ケル小型熔鑪ノ補強對策

本年十月以來審議ヲ續ケ補強對策ヲ得タリ(質問第二參照)

件

一 滿洲ニ於ケルアルミニウム原料用礬土頁岩ノ技術的検討ニ關スル
件
本邦ニ於ケルアルミニウム原料ノ轉換對策ニ呼應シ主トシテ原
料條件ヲ明確ナラシムル目的ノモトニ學會委員會ノ權威者ヲ委員ニ
委嘱目下審議中ナリ(質問第三參照)

秘二、小型熔鑄爐技術的對策及見透シ如何

支那ニ於ケル小型爐鑄建設ハ一部ノモノヲ除キ比較的順調ニ進
歩中ナルキ出銑狀況ニ就テハ當初ノ豫定ニ比シ必シキ充分トハ稱シ
難シ之カ原因ノ重要ナルモノハ左ノ如シ

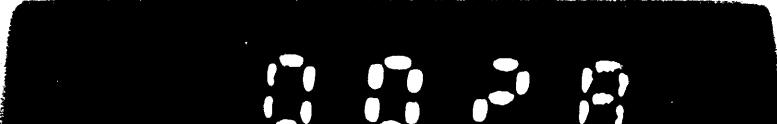
1. 石炭鑄鑄石等原料ノ良質ノモノハ先ツ優先的ニ日滿ニ供給スルヲ
要シ現地製鐵所ハ粗悪原料消化ノ要アルコト
 2. 當初計畫ニ於テ極度ノ資材節約ヲ計リタルタメ熱風爐、運搬設備
コークス設備其ノ他設計上操業上ニ不備ノ點アルコト
 3. 青島高爐ノ成績不良ナルコト
- 日下大東亞技術委員會ニ於テ之カ補強對策ヲ審議中ニシテ、着々措

置ヲ講シツツアリ漸次成績向上ノ見込ナリ

秘三、アルミニウム原料、鑛土頁岩等採集、採掘の如何

先般大東亞等ヨリ鑛土頁岩山元状況、鑛土頁岩等採集、採掘の結果
山元等ニ鑛務區、存在、確切、高品位鑛石、毎日供給、能ク目下
準備進捗中ナリ

日下大東亞採掘委員會ニ於テ内地ニ於ケル鑛土頁岩ノ處理、鑛石
石採掘ニ關スル鑛務等採掘の如何、採掘中ナルモノ、ボーキサイトノ
代田トシテ北豆等ノ鑛土頁岩、本邦鑛務會ニ於テ採集ナル實績、爲
シ得ル果込ナリ



一、大東亜要員練成ノ基本方針ヲ問フ

大東亜要員練成ニ關スル重要事項ハ隨時大東亜要員練成委員會ニ諮問シテ同委員會ニ於テ大東亜要員練成綱決定セラレ同綱ハ昨年二月五日閣議了解ヲ得タリ

同綱ハニ依レバ大東亜要員ノ練成ハ肇國ノ大精神ニ基キ大東亜新秩序確立ノ爲之カ礎石タル人材ヲ養成スルコトヲ目標トシ鈔成ニ當リテハ大東亜新秩序建設ノ本義ニ徹セシメ之ヲ顯現スルニ必與テ不致ノ實踐力ト不撓ノ敢闘精神ヲ涵養スルト共ニ現地民ノ信賴心服ヲ贏チ得ル識見ト教養ヲ具ヘシムルコトニ之ガ重點ヲ置クニ基キ大東亜省ハ大東亜地域ニ進出スル者及現地ニ在リテハ活動スル

者ノ凡テニ對シ適切ナル練成若クハ訓練ヲ行フ爲練成機構ヲ速ニ整備スルコトトナリ其ノ一トシテ先般官立練成所タル興亜練成所、興南練成院ヲ統合シ大東亜練成院ヲ設置シ中堅指導者ノ養成ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ國內公私練成施設ヲ活用シ大東亜練成院ノ練成ヲ受ケ得ザル者ノ爲大東亜省指導ノ下ニ大東亜要員特ニ南方要員ニ對シ練成ノ徹底ヲ期シテ他方國外特ニ支那ニ於テハ北京、上海、張家口ニ練成ノ中心機關ヲ設置シ華北華中華南蒙疆各地ノ練成ヲ指導セシメツツアリ南方諸地域ニ就テハ計畫中ナリ

二、大東亞鐵成院ノ組織與亞鐵成所與南鐵成院トノ關係如何

大東亞鐵成院官制ハ昨年十一月二日公布セラレタルガ大東亞鐵成院ハ與亞鐵成所與南鐵成院ノ形式的統合ヲ廢シ大東亞鐵成院ニ即應タルト共ニ他面大東亞建設ノ眞ノ要請ニ應ジ得ル如キ新性格ヲ以テ發足セリ

一、院ノ機構ハ院長ノ下ニ官房亞研究部第一、第二、第三ノ各部ヲ設ケ官房ニハ兼任主事ヲ配シ主トシテ官房事務ヲ掌ラシム

二、研究部ハ院務進行ノ中樞ニシテ院務ノ連絡統一並ニ調査研究ニ關スル專任ヲ掌ルモノトス

研究部長ハ院長ヲ輔佐シ院務ノ連絡統一鐵成官自體ノ研究指導鐵

成院目ノ研究指導院外トノ連絡ノ交渉ヲ擔當ス云ハハ鐵成全院ノ

圓滑ナル運行ヲ圖ル任務ヲ有スルモノトス

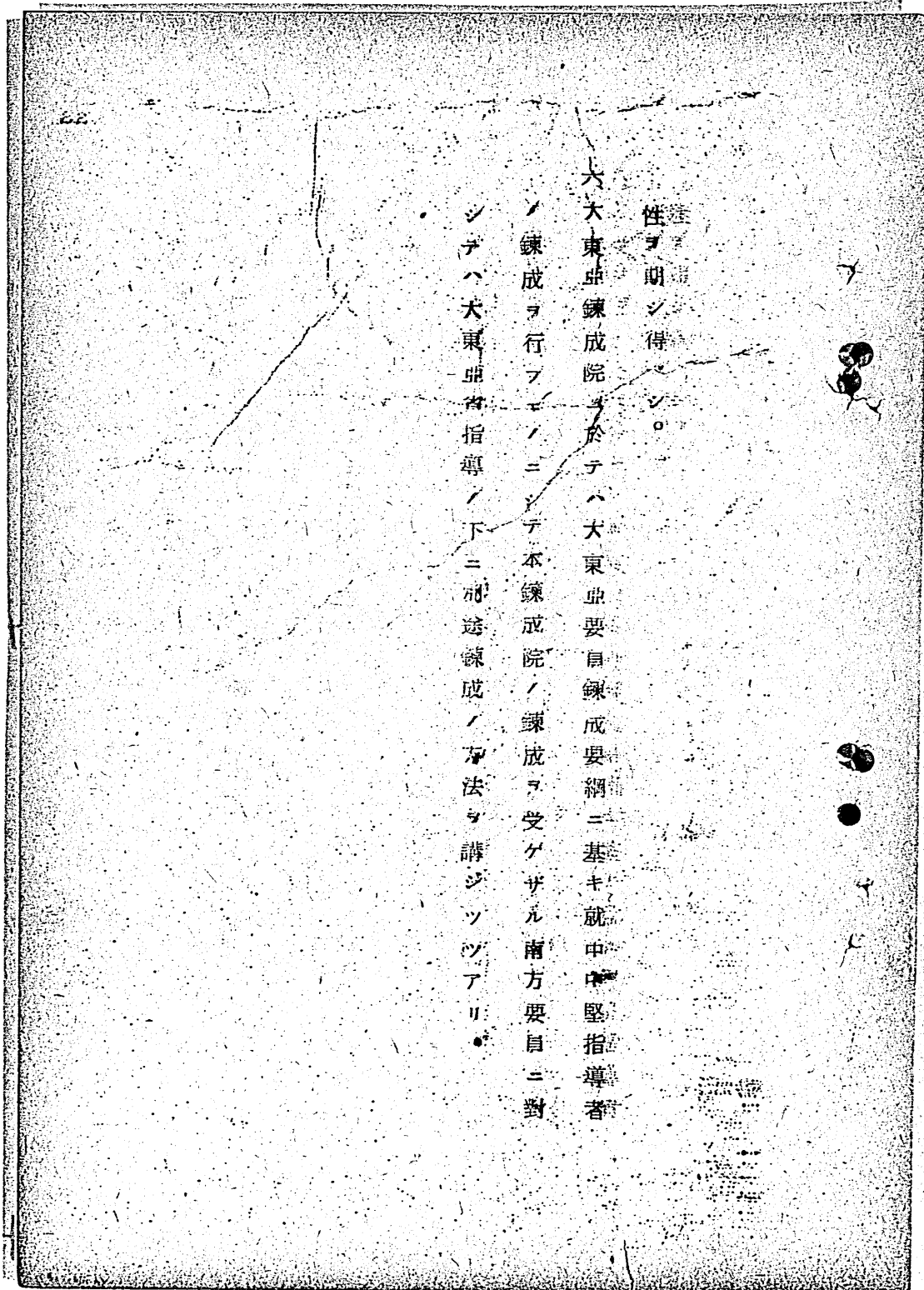
三、第一部門支那滿洲鐵成院及第二部門南方鐵成院ニ於テハ主トシテ現下ノ要請ニ即應シ院地要員ニ對シ應急ニ所與ノ鐵成ヲ施スヲ以テ自任トシ

(1) 第一部門ハ支那滿洲ニ於ケル政治經濟又ハ文化ニ關スル業務ニ從事スル者ニシテ官吏ニ在リテハ高等官又ハ高等官タルベキ者其ノ他ニ在リテハ鐵成ニ於テ右ニ準スル者ヲ鐵成ス。從テ第一部門ハ與亞鐵成院ニ於テ付ハレタル鐵成ヲ繼承スルモノナルガ被繼承者ノ資格ヲ從來ヨリ多少緩和シ該鐵成會社又ハ鐵成ニ於ケル鐵成ニ於テ第一部門ニ入ルルヲ適當トスル者ニ付テハ本院ニ

於テ錄成ノ後、其ノコトトシテ尙錄成上必要ナル事ニハ、
一、部ニ別テ、録成ノ後、其ノコトトセリ。第一、部ノ期間ハ、六月、各期百
名年二百名、此ニテ、各各ノ録成ナリ。
尙、滿洲國ニテ、本國ニ來ルテ、錄成ヲ受ケル者、範圍及員數ハ、滿洲
國ノ特殊事情ニ應ジテ、極力擴張スルベシトシ、
（一）第一、部ノ之ヲ三、部ニ分テ、第一、部ニテ、夫々、其ノ録成院、第一、
部、第二、部ヲ、極力、擴張スルベシトシ、
ル、爲、新設セラルベシトシ、第一、部、第二、部ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。

第三、部ニ於テハ、大東亞建設ノ眞ノ要諦ニ即應スル、即チ、人、材、養成ノ
目的ヲ以テ、其ノ録成ヲ、極力、擴張スルベシトシ、
（一）第一、部、第二、部、第三、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（二）第二、部、第三、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（三）第三、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。

第一、部、第二、部、第三、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（一）第一、部、第二、部、第三、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（二）第二、部、第三、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（三）第三、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（四）第四、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（五）第五、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（六）第六、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（七）第七、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（八）第八、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（九）第九、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。
（十）第十、部、ノ、期間ハ、三月、年、數、國、一
同、員、數、各、百、名、ノ、錄、成、ナリ。



性ヲ明シ得ルヲシテ

大東亞鍊成院ニ於テハ大東亞要員鍊成要綱ニ基キ就中堅指導者
ノ鍊成ヲ行フニシテ本鍊成院ノ鍊成ヲ受ケザル南方要員ニ對
シテハ大東亞省指導ノ下ニ別途鍊成ノ方法ヲ講ジツツアリ



三、南方要員錬成ノ根本方針ヲ問フ

大東亞戰爭ノ勝利ヲ確保シ大東亞建設ヲ完遂スル爲ニハ大東亞地域ニ進出スル邦人ノ實踐ハ時ニ重且大ナリト云フベシ從テ之等進出邦人ヲ嚴選シ適格者ニ對シ充分ノ心養ヲ保持セシムルコトハ現下ノ情勢ニ於テハ一刻ヲモ争フ喫緊ノコトナリ然ル處滿洲支那ニ於テハ一應現地錬成等實施セラレアルモ南方諸地域ニ赴ク者ニ對シテハ大東亞錬成院其ノ他大東亞省助成ニ係ル若干ノ錬成所ニ於テ少數ノ錬成ヲ行ヒ來リタルモノヲ除キ禾々組織的ニ錬成ヲ實施シアラス旁々南方陸軍占領地ニ赴ク民間要員ノ第一次銓衡ハ大東亞省ニ委ネラレタル事情ニモ鑑ミ南方渡航者ニ對シ短期間錬成ヲ實施スルコトナレ

二、錬成對象

産業財務交通等ノ處理ノ爲進出スル者、再渡航者其ノ他ニ對シ大東亞省指定ノ錬成所ニ於テ錬成ヲ受ケシムルコトトセリ錬成ハ建前トシテ南方要員凡テニ對シ行フモノナルモ之ヲ要セザルモノトシテ若干ノ例外ヲ認メ居レリ

二、錬成期間モ船符チ期間ヲ利用スル關係上一ヶ月錬成トセルモ乗船命令アリタル場合ハ短縮シ建設要員送出ニ支障無カラシムル様配慮シアリ

三、錬成要領ハ皇國民ノ本分及責務ニ對シテ徹底セル自覺ヲ啓培シ常時之ヲ實踐シ得ル人物ノ錬成ヲ目的トシ規律的生活訓練現地事情

ノ認識實際的知識ノ取得、現地民指導ノ心構等、主トスル訓育ヲ

根幹トシ年齢學歷等ニ依リ多少編成内容ニ手心ヲ加ヘ居レリ

四 練成所ハ差當リ海外同胞中央中央會館附屬、福西南練成所及大政翼贊會高峰異

地練成道場ヲ指定セリ(石ハ、)

經營者側ノ財政的内容等ヨリ指定セルモノニシテ要スレバ指定練

成所ノ増加ヲ考慮ス

五 練成實費トシテ修練生所屬會社ヨリ月五十圓ヲトルコトトセリ復

歸者其ノ他ノ個人ヨリハ徵收セズ豫算等ヨリ事情許スニ於テハ會

社側ヨリノ實費徵收ハ減額致シ度キ考ナリ

六 南方要員ノ練成ハ大東亞省ニ於テ一元的ニ行フコトヲ適當トシ大

東亞要員練成要綱ニ於テモ可成速ニ大東亞省ニ一元化スルコトヲ

規定シ居ル處從來農林省農業技術要員練成、文部省日語教員練成

等ニ於テ夫々南方要員練成ヲ行ヒ來リテ調整セラレアラズ至急

調整ノ要アル次第ナリ

(官廳ニ於テ直接間接ニ經營シアル南方要員練成施設ニ關シテハ

大東亞練成委員長ヨリ各委員ニ照會セル處文部省未回答、鐵道

遞信、厚生各省ヨリハ該當ノモノナキ旨回答アリ内務省ヨリハ農

務總督府管下醫務技術員養成、農業技術關係者養成アル旨回答ア

リ農林省ヨリ農業報國聯盟ニ於テ實施セル南方農業開發指導者練

成施設ニ付回答アリタリ)

一、留日學生ノ指導ニ關スル件

留日學生ニ對シテハ大東亞政策ノ一環トシテ皇國ヲ中心トスル大東亞建設ニ挺身協力スベキ實踐的指導者タラシムベク之ヲ育成スルヲ以テ主眼トシ一設計畫ノ下ニ該國政府又ハ現地機關ノ推薦アリタルモノヨリ選拔シ天竺新亞細亞教育ヲ實施シ内地各役ニ對シソノ派遣國及本人ノ志望ヲ勘察シ主眼正副分ヲテスモノトス

又留日學生ノ學校ニ於ケル教育ニ對テハ文部省指導ノ下ニ原則トシテ日本人ト同様ニ嚴正ナル教育ヲ實施スルト共ニ輔導ニ關シテハ大東亞省ニ於テ各輔導機關ノ協力ヲ結集シ一元的強力ナル輔導體制ヲ確立シ派給一貫セル方針ノ下ニ輔導各役ノ事項ハ勿論生活保護

ニ關シテモ適正措置ヲ講ジソツ以テ皇國ニ對スル深キ理解ト信頼トヲ體得セシメ東洋本來ノ傳統精神ヲ振作昂揚シ優秀ナル皇國ノ學術技能ヲ修得セシムル如ク指導シ卒業歸國ノ後ニ於テモ留學ノ成果ヲ結實セシムル如ク積極的ナル就職斡旋ソノ他適切ナル措置ヲ講ズ

以上ノ如キ目的ヲ完全ニ遂行スルタメニ關係廳ニ於テハ留日學生指導ニ關シ密接ナル提携連絡ノ下ニ萬道漏ナキヲ期スルト同時ニ官民協力ハ勿論廣ク民間ノ關心ト理解ヲ要望シ輔導ノ萬全ヲ期スモノトス

秘一、大東亞地域カ帝國ノ物的戰力増強ニ對シテ寄與シツツアル現狀如何

(計數特ニ注意)

一、大東亞解放ノ聖戰タル大東東戰爭ハ緒戰ニ於ケル迅速果敢ナル皇軍ノ活躍ニヨリ赫々タル戰果ヲ收メ今ヤ大東亞十億民衆ノ強固ナル團結提擧ノ下ニ概ネ高度國防國家的自給体制ヲ確立シ忠烈勇武ナル皇軍ノ鐵桶的布陣ニ依リ苛烈ナル敵側ノ反抗ヲ排除シツ、只管ラ大東亞民心ノ結集ト物的戰力ノ飛躍的強化トヲ圖リツツアル現狀ナリ

而シテ帝國ハ眞ニ其ノ中核トシテ物的ニ見ルモ戰爭完遂ノ爲多大

ノ負擔ヲ爲シ居レルコト固ヨリナルモ他面滿洲、支那、南方ノ各地院ニ於テモ其ノ態容乃至程度ニ差コソアレ帝國ノ物的戰力ノ増強ニ對シテハ各々適切ナル應能分擔ヲ行ヒツツアリ殊ニ各地域共資材、食糧、勞務、輸送等ニ亘ル諸般ノ障礙ヲ排除シツツ極力寄與ノ増大ニ力ヲ致シ居ル實狀ハ誠ニ注目スヘク且感謝ニ堪ヘサル所ナリ

二、以下鐵鋼類、鐵鑛石、石炭及アルミニウムニ關スル本年度ニ於ケル計畫、實績竝ニ明十九年度ニ於ケル計畫ニ關シ詳述セントス

(1) 鐵鋼類

(1) 滿洲ニ於テハ極力國內需要ヲ壓縮シテ鋼材及銑鐵ノ對日供給ノ増加ニ努メツツアルト共ニ國內生産力ノ増加ニヨル對日期

貯量ノ減少ニヨリ消極的ニ對日寄與ノ増大ヲ行ヒツツアリ即
 チ從前概ネ年當一五〇乃至二〇〇千屯ノ鋼材ヲ日本ニ仰キ居
 リタル所本年度ニ於テハ機材素材ノミ約四〇千屯ノ要求ノミ
 ニ留メタル次第ニシテ今度概ネ右ノ狀況ヲ推移スベキ豫定ナ
 リ 本年度及明年年度ニ於ケル對日供給計畫左ノ如シ

鋼材 低 燐 銑 普 通 銑

昭和十八年度計畫	一八〇〇〇	二五〇〇〇〇	五三六〇〇〇
	△三〇〇〇〇		△四五〇〇〇
同 上半期実績	二二六二一	九六八四〇	二一八五〇三
昭和十九年度計畫	△六〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	五八五〇〇〇
		△四五〇〇〇	

28の1

尙別途十九年度銑鐵緊急増産一〇〇千屯ハ對日供給ノ豫定ナ
 リ

(ロ) 支那ニ於テハ昭和十八年頭初以來小型熔鑪爐ニ依ル銑鐵生産
 計畫ヲ大規模ニ取上ケ而モ對日、滿供給ノ鐵鑛石、石炭等ノ
 數量ハ固ヨリ品位ヲモ低下セシメサルコトヲ常ニ念頭ニ置キ
 ツツ之カ建設並ニ操業ヲ開始シ建設方面ニ於テハ概ネ既定計
 畫(八十一基)ノ大半ヲ完了シ得ル見込ニシテ操業方面ニ於
 テモ原料品位ノ不良、食糧不足等ニ依ル工人不足、設計不備
 等ノ諸般ノ惡條件ニモ拘ラス着々出銑ヲ増加シツツアリ目下
 実績ヲ常ニ注視シツツ適時適切ナル緊急補強工作ニ遺憾ナキ
 時期シツツアルヲ以テ漸次良好ナル成績ヲ收メ得ヘキモノト

信ス 尙ホ石ニヨリ生産シタル純鐵ハ既設高爐分及土法銼ト
共ニ全量對日供給ノ豫定ナリ

昭和十八年度計畫 一三七五〇〇

同 十一月末ノ出銼實績 一三一六〇

同 年度内ノ見透 八八〇四七

昭和十九年度計畫 五七八〇〇〇

尙既設熔鑛爐石景山、大原、陽泉、銼鐵竝ニ土法銼ノ銼出
給計畫ハ十八年度七〇千屯（生産九九千屯土法銼三〇千屯
△）ニシテ上半期實績一八九二九屯十九年度計畫ハ一六七千
屯（生産二六七千屯、土法銼ヲ含マズ）ナリ
又中支大冶ノ四五〇屯爐爐ニ基分ノ復舊措置等ニ關シテハ目

2802

下關係方面ニ於テ研究中ナリ

(2) 鐵 鑛 石

(イ) 滿洲ニ於テハ急激ナル製鐵能力ノ増加ニ對シ鐵鑛石ノ供給之
ニ伴ハサル實狀ニシテ後述ノ如ク蒙疆ヨリ相當量ノ供給（總
所要量ニ對シテ約一五%）ヲ受ケツツアルモ目下計畫中ノ貧
鑛處理施設ノ完成ヲ見ルニ於テハ自給度ノ向上ヲ見ルニ至ル
後述粘結炭自給問題ト共ニ現在滿洲鐵業ノ最重要事項ナリ
(ロ) 支那ニ於テハ其ノ豐富ナル鐵鑛石資源ノ開發増産ニヨリ專變
後僅々七十八年間ニ實ニ五倍強ニ上ル對日對滿供給ヲ行フニ
至リタル次第ニシテ後述粘結炭ノ供給ト共ニ我國製鐵業ニ對
シ極メテ貴重ナル貢獻ヲ爲シツツアリ例ヘハ十九年度ニ於ケ

ル我國製鐵業ノ所要鐵鑛石ノ二〇%強ハ其ノ供給ヲ支那ニ仰
 キ又更ニ前述ノ如ク滿洲所要量ノ一五%ノ供給ヲ爲シ之ニ依
 リテソミ始メテ滿洲ノ對日鐵鑛類ノ供給ヲ行ヒ得ル状態ナリ
 而シテ他方製鐵ノ増加ニ伴ヒ現地ニ於ケル鐵鑛石ノ要求亦多量
 ニシテ明年度ニ於テハ約三三〇千屯ニ上ルヘク斯クテ蒙疆ノ
 北支、中支、南支ノ全地域ニ涉リ良品位ノ鐵鑛石ノ需要増産
 ハ焦眉ノ急ヲ要スル問題ナリ 尙船腹ノ緊迫ニ伴フ輸送力減
 ニ對處シテハ山元ニ於ケル採掘ヲ落スコト無ク專ラ貯積ニヨ
 リ對處スヘキモノトス

2673
 (對日供給)

北支 中支 南支 海南島

昭和十八年度計畫 七八〇〇〇 三三九六〇〇〇 二二〇〇〇〇〇
 同 上半期實績 五九七七〇 一三三二〇三四 六二七二六五
 昭和十九年度計畫 一五〇〇〇〇〇 二二〇〇〇〇〇 一四〇〇〇〇〇〇

(對滿供給)

蒙 疆

昭和十八年度計畫 六五〇〇〇〇
 同 上半期實績 三四八七四七
 昭和十九年度計畫 七〇〇〇〇〇

(3) 石 炭

(4) 滿洲ニ於テハ近時漸々石炭生産ヲ減少ヲ見ルニ至リ特ニ製鐵
 用原料炭ノ供給ニ關シ大イニ不足ヲ感シツツアリ北支ニ對シ

テ相當量ノ期待ヲ餘餘ナクシ居ル實狀ナリ目下松瀧、富錦與隆ノ開發ヲ計畫中ニシテ之ニヨリ數年後ニハ原炭約三〇〇〇千屯ノ供給ヲ行ヒ得ル見込ナリ

尙朝鮮清津竝兼二浦製鐵所原料炭並ニ對日無煙炭ノ供給ニ關シテハ全力ヲ擧ケテ之カ完遂ニ力ヲ致シツツアリ

昭和十八年度計畫 三一、二〇千屯

同 上半期實績 九四、八千屯

昭和十九年度計畫 三、四二〇千屯

(ロ) 支那ニ於テハ北支、蒙疆ニ於ケル豐富優良ナル石炭ノ開發並ニ供給ニ關シテ極力之カ増大ヲ圖リ來リ事變後儘カニ數年ニシテ約一倍半(昭和十二年度生產實績決定ト同十七年度實績

26の4

比較)ニ上ル生產ヲ行フニ至レリ然ルニ本年度頭初以來主トシテ食糧不足ニ原因スル勞力不足並ニ所要資材ノ入手難ニ直ニ依リ輸送減ヲ來シ對日供給ニ關シテハ所期ノ數量ヲ下廻リ概ネ四二〇〇千屯程度ノ見込ナリ

今後ニ於テ極力右生產面ニ於ケル隘路ノ打開ニ努ムルモ特ニ滿洲ヨリノ食糧輸入量ノ増加ニ期待スルコト多大ナルト共ニ對日供給價格ノ値上等ヲ考慮スルノ要アリ

對日供給(北支、蒙疆) 四九、二〇千屯

昭和十八年度計畫 同 改訂 五一、五〇千屯

(四) ボーキサイト並礬土頁岩

アルミニウム生産原料タルボーキサイトハ之ヲ全量南方ニ依
存シ本年度計畫トシテハ大東亞地域關係トシテハ南洋一ニ〇
千屯佛印三〇千屯、他ハ甲地域七八六千屯ノ計畫ニシテ上半
期実績ハ南洋二八九千屯佛印三四千屯甲地域四二五千屯ナリ
然ルニ船腹ノ狀況其他諸般ノ事由ニヨリ右ノ如キ全面的南方
依存ハ必ズシモ確實ト云フ可カラサルヘク爲ニアルミ生産ノ
國産原料ヘノ轉換ガ必要トセラレ之ニ依リ北支ニ於ケル礬土
頁岩ノ緊急増産ガ當局ノ問題トナルニ至レリ本年九月以降當
省關係ニ於テ調査ヲ行ヒタル結果山東省張店附近ニ優良品位
ノモノヲ發見シ之ニヨリ所要資材並勞務ニシテ確保シ得レバ

2675

十九年度五五〇千屯ヲ供給シ得ル見込ナリ

(五) 螢石

アルミニウム生産ニ必須ナル螢石供給ニ關シテモ大陸ハ絶大
ナル協力ヲ行ヒツツアリテ昭和十九年度ニ於テハ我國ノ總需
要量ニ九〇千屯ニ對シ滿洲二五千屯支那三〇三五千屯合計八
〇%ノ供給ヲ行フ計畫ナリ

	滿洲	支那
昭和十八年度計畫	二七三〇〇	一三三七〇〇屯
上半期実績	八一三三	四六二六四

昭和十八年度上半期実績 二〇八三千屯
 昭和十九年度計畫 五七五〇千屯
 對滿供給（北支、蒙疆）

昭和十八年度計畫 三〇五〇千屯

同 改訂 三〇五〇千屯

同 上半期実績 三五四三千屯

昭和十九年度計畫 三四〇〇千屯

(ハ) 佛印ニ於テハホンゲイ無煙炭ノ對日供給ヲ行ヒツツアルモ船腹ノ逼迫並ニ積込地ニ對スル爆撃等ノ關係上本年度計畫二六〇千屯ニ對シ上半期八五千屯ヲ供給セルニ止マレリ

(4) アルミニウム關係

(イ) アルミニウム

滿洲ニ於テハ現在一萬屯ノ生産能力ヲ有シ右ノ内本年度ニ於テハ四〇〇〇屯（現地軍需ヲ除ク）對日供給ノ計畫ニシテ尙來年度以降増産對策ヲ講シ對日寄與ノ増加ニ努ムル豫定ナリ
 支那ニ於テハ北支ニアルミナ六萬屯生産計畫ヲ樹立シ既ニ其ノ建設ニ着手シ十九年度六〇〇〇屯對日供給ノ計畫ナリ

(四) ホーキサイト産鑛土頁岩

アルミニウム生産原料タルホーキサイトハ之ヲ合衆南方ニ
存シ本年産計量トシテハ大夏産額約一〇千噸トシテハ南洋一
〇千噸佛印三〇千噸トシテハ甲斐産七八千噸トシテハ南洋一
上半期實産ハ南洋二八九千噸佛印二萬千噸甲斐産額二萬千
噸ナリ

然ルニ結核ノ狀況其ノ他諸液ノ輸送ニ依リ右ノ類ニ全産
南方依存ハ必ズシモ確實ト云フ可カラサルベク南洋ニ於テ
産ノ國産原料ハノ輸送ガ必ズシモ之ヲ依リ北支ニ於テ
鑛土頁岩ノ緊急増産ガ當面ノ問題トナルニ至レド本年九
月以降急増産ニ於テ調査ヲ行ヒタル結果未山爲産額近

ニ優良品位ノモノヲ發見シ之ニ依リ所要産額産出ニシテ

産出額得レバ十九年産額五〇千噸ヲ供給シ得ル見込ナリ

(五) 螢石

アルミニウム生産ニ必須ナル螢石供給ニ關シテモ本國ハ
絶大ナル協力ヲ行ヒツツアリテ昭和十九年産ニ於テハ我國
ノ總需要量二九〇千噸ニ達シ滿洲ニ萬千噸支那二〇三萬千
噸合計八〇萬ノ供給ヲ行フ計量ナリ

滿洲 支那

昭和十八年産計量 二七三〇〇 一三三三〇〇

上半期實産 八一三三 四六二六四

秘二、大陸ニ於ケル陸運轉換ノ實狀如何

(計數ニ特ニ注意)

昭和十七年十一月閣議決定ヲ見タル「陸運非常體制ノ確立」ニ準據シ大陸ニ於テモ極力重要物資陸送ノ海送ヨリ陸送ヘノ轉換ヲ圖リ以テ船迫ノ節減ニ寄與シツツ來レリ

(一) 南鮮中繼

先ヅ十七年十二月以降滿洲並北支ノ物資ニ付キ之ヲ京山、奉山、安奉、京義、京釜ノ各線ヲ輪送シテ南鮮諸港(釜山、馬山、木浦、麗水)迄輪送シ茲後ハ機帆船又ハ汽船ニヨリ海上短距離ヲ阪神關門地區迄輪送スヘキ所謂「南鮮中繼」ノルートヲ確立シ本年度ニ

於テハ北支ノ石炭(朝鮮止)道(内地迄)滿洲ノ石炭、鐵鋼類、雜穀類等合計ニ七七四千屯ノ輪送計畫ヲ樹立シ上半期五三五千屯ノ實績ヲ收メタリ

十九年度ニ於テハ目下北支發一、五九〇千屯、滿洲發二、六二九千屯合計四二、一九千屯(内朝鮮止一、一一千屯)之ニ朝鮮發若干ヲ加ヘ約三、八〇〇千屯南鮮中繼ノ見込ナリ而モ尙目下之ニ對シ一、〇〇〇千屯ヲ増加シ四、八〇〇千屯トナスベク計畫中ナリ

(二) 大陸相互間

從來北支滿洲、北支中支、間ニ於ケル重要大量物資ハ殆ド海送ニ依リ居リタル所十七年十二月以來右趣旨ニ準據シ極力陸送ニ轉換ヲ圖リ十八年度以降ニ於テハ重要物資全部ニ付キ陸送ヲ行フコト

トセリ
(北支、蒙疆ヨリ滿洲へ)

石炭 鐵礦石 其他 計

十八年度計畫 三〇五〇 六五〇 二五〇 三九五〇

十九年度計畫 三四〇〇 七〇〇 二五〇 四三五〇

十八年度上期実績ハ殆シド計畫量ノ半數ヲ定送セリ

(北支、蒙疆ヨリ中支へ)

十八年度計畫 二四五五 (石炭)

十九年度計畫 二七五〇 ()

十九年度上期実績ハ石炭生産減ノ爲八二六千屯ヲ輸送セリ



秘三、大東亞共榮圈ノ交易ノ現状如何

(計數ニ注意)

第一 交易機構

一 本邦ハ交易管團ヲ中心トシテ擔當セシメ居ル處一般ニ本邦交易

統制方或ハ貿易統制令及向施行規則ニ基キ左ノ通

- (1) 輸出許可制度ニヨルモノ(書籍等)
- (2) 管團取扱ニヨルモノ(3) 雜物賣ヲ除ク)
- (3) 特別ノ法令ニヨリ統制サルルモノ(鹽、煙草、酒類等專賣物、食及木、小麥粉、飼料、肥料第一部長林物賣ヲ除ク)
- (4) 輸入ニ付テハ管團取扱ノモノト然ラサルモノトヲ問ハス凡テ

爲管取組又ハ無爲管輸入ニ付許可制度ニヨル

而シテ管團ハ(イ)自己カ直接輸出人ヲ爲ス場合及(ロ)其

下部機構(組合及業者)ニ委託スル場合ノ兩方式ニヨレリ

二 滿洲國ニ交易ハ貿易統制令及物資別統制法令ヲ基トシ臨時貿易

爲管團ノ制度ニヨリ事實上滿洲國ニ於テナリ輸出人ノ統制ヲ行ヒ

店リ日滿商事、農産公社、專賣總局(以上主トシテ輸出)、商

州主店必要品賣社、滿洲重安日用品統制組合、向雜貨統制組合

等(以上主トシテ輸入)ニヨリ擔當セラレ居リ右輸入統制機關

ハ滿洲貿易聯合會ヲ結成ス

三 支那ニ於ケル現況左ノ如シ

(一) 北支ハ華北交易統制總會(任意團體)及其ノ傘下ノ物資別諸